

事業所名

かたつむりクラブ

支援プログラム

作成日

2024 年

10 月

1 日

法人（事業所）理念		一人ひとりが光り輝く人生の主人公となるような社会の実現をめざす							
支援方針		<p>仲間作り … いろいろな活動を体験する中で、一人ではできないことも、友達と一緒にならやってみる、みんなで遊ぶ楽しさを実感するなど、個々の気持ちを大事にしつつ子ども同士の関係作りを支援します。</p> <p>体を動かす遊び … 小学生の時期に体を動かすことが大切だと思い、公園等での外遊びを多く取り入れています。歩く、走る、上る、下りる、跳ぶなどダイナミックに体を動かすことを遊びの中で楽しみながらできるようにしています。スタッフの配置を十分に、安全面への配慮も行っています。</p> <p>療育的視点 … 作業療法士、音楽療法士の方々のアドバイスを活動に活かしています。スタッフも定期的、継続的に研修を重ね専門性を養うよう努めています。</p> <p>地域交流 … 買い物、図書館、児童館など地域の中に出て活動をしています。また、電車・バス等公共交通機関を利用してお出かけする中で、社会性を身につけ地域で生きていくことを目指します。</p> <p>保護者との連携 … 定期的に保護者会や親子行事を開催しています。スタッフと保護者、保護者同士と一緒に活動したり、学習したり、悩みを相談したりする中で、子どもの成長を喜び合い、子どもを中心にして手をつないでいきます。</p>							
営業時間		放課後	14		17		送迎実施の有無	あり	なし
		長期休暇	9 時	0 分から	17 時	0 分まで			
		土曜祝日	9		15		支 援 内 容		
本人支援	健康・生活	靴を靴箱にしまう、手を洗ってハンカチで拭く、ポケットにハンカチをしまう、連絡帳をリュックから出す、リュックをしまうなど基本的な生活習慣が身につくように支援しています。また、「あいさつ⇒公園⇒おやつ⇒さようなら」など大きな生活の流れを理解し活動できるように支援しています。苦手な食べ物は無理強いせず、食べなくなる環境作りをし、長い目で見守っていくことを大切にしています。おやつのお皿、お弁当箱など自分のものは自分で洗うようにしています。排泄に関して、オムツからパンツへの移行は本人の意思を尊重しつつ感覚面での育ちを高め、時間誘導を基本に移行できるような支援を心がけています。							
	運動・感覚	公園遊びをメインに考えて活動を組み立てています。ブランコ、シーソー、すべり台、回転遊具、砂場、たんけん遊び、キックボード、ボール遊びなど体を動かし、楽しみながら感覚刺激を得られるように考えています。部屋でも巧技台、トランポリン、回転シーソーなどで楽しく遊びつつ感覚刺激を入れられるよう工夫しています。長期休暇や土日祝日など時間があるときは片道3キロ～5キロの長距離を歩く活動も取り入れています。本門寺公園へはたくさんの階段を上り下りすることで体幹や筋力を鍛えることができます。全体として「やらされてやる」のではなく「楽しい・やりたい」を大切にしています。							
	認知・行動	プリントや宿題などの学習はしていません。遊びの中で学べることを大切にしています。おやつ配りでお皿の一つずつのせる「1対1対応」、おかわり3つで「数える」、おやつの買い物で何を買ったかを書く、絵を書いて貼る、紙を切って糊やテープで貼る工作活動など「やってみよう」と思える活動を工夫しています。おやつ作りでは包丁やピーラーなどを使う、卵を割る、混ぜる、炒めるなど作業を通して「目と手の協応」「じっくり取り組む姿勢」「待つ」「順番にやる」などの行動調整ができるように支援しています。また、認知面で低い場合でも「自分で選ぶ」ということを活動の中でできるようにして、考える場面を設定するようにしています。							
	言語 コミュニケーション	言葉だけに特化した指導はしていません。まずは伝えたい！と思える関係づくりをし、言葉やサイン、ジェスチャーをたくさん出せるように支援しています。その子なりの表現を理解し、応えることで伝わる喜びを本人が感じるられるように考えています。表出言語だけではなく、理解言語（内言語）を増やすことも大切にしています。特に、生活の中で使う言葉や要求したいときの言葉はどの発達段階の子どもにも必要なものなので、意識して使えるように言葉かけをしています。また、対面（1対1）の関係では言葉に出しにくい場合は手遊びや歌、ダンスなど遊びを通して表出できる場面を作っています。写真や絵カードは必要な場合のみの使用として、主に言葉やサイン、ジェスチャーで対応しています。							
	人間関係 社会性	集団遊びや少人数での遊びを通して、まずは「友達・仲間意識」がもてるように心がけています。ルールを守ることも大切ですが、理解できないルールに縛られることは避け、その子のルールも大切にるところから始めます。「貸して」と言ったら「いいよ」と言って貸すことをよしとするのではなく、「やだよ」と貸したくない子どもの気持ちも大切にあげたいです。また、施設内で留まっているのは社会性は養えません。池上の地域だけでなく、公共交通機関に乗ること、買い物をすること、いろいろな施設を訪れたり催し物に参加したりすることで、ルールやマナーを学ぶ機会を作っています。							
家族支援		送迎時、連絡帳、電話などで本人だけでなく家族の相談にのる。 保護者会を年に4回、親子行事を年に6回行い、保護者同士、きょうだい同士のつながりを作る。年に1回スタッフと保護者との交流会を行う。 必要があれば家庭訪問もする。				移行支援		小学校卒業後は法人内の別の事業所へ移行するため、卒業前に体験をし、スムーズに移行できるように支援している。 学校への見学は学校の許可があれば必ずして、先生との情報共有ができるように心がけている。	
地域支援・地域連携		児童館、図書館、スーパーや駄菓子屋など日々の活動の中で行っている。 他事業所、相談支援事業所、学校、区役所など毎月のおたよりを配布。 必要に応じ、支援者会議を各関係機関と行う。 大田区ネットワーク会議に出席し、情報交換や連携をはかる。 バザー（年1回）をして、地域の方と交流をしている。				職員の質の向上		スタッフミーティング（4月） スタッフ学習会（6月・10月・2月） 法人内研修（年5回）、法人内発達支援学習会（年5回） 外部研修（年5～6回）	
主な行事等		親子公園あそび（5月）、親子交流合宿（6月）、親子夏祭り（8月）、バスハイク（9月）、ハロウィンパーティー（10月）、親子ハイキング・山歩き（11月）、クリスマス会（12月）、豆まき（2月）、親子やきいもパーティー（2月）、お別れ遠足（3月）							